

「出土資料と漢字文化研究会」 第11回定例研究会のご案内

報告者：李承律氏（成均館大学校）

**題目：「上博楚簡『鬼神之神』の
鬼神論と墨家の世界観研究」**

本会は、平成21年度科学研究費補助金（基盤研究（B））「新出土資料を通してみた古代東アジア世界の諸相—漢字文化圏の中の地域性—」（研究代表者：谷中信一）によるものです。古代東アジア世界の諸相、換言すれば、いわゆる漢字文化圏における地域性の実態を、新出土資料を通して、主として思想・言語・宗教・制度の側面から具体的かつ詳細に明らかにしようと考えております。

さて、第11回を迎える今回の定例研究会では、韓国より成均館大学校東アジア学術院研究教授の李承律氏をお招きし、ご報告をしていただくこととなりました。今回のご報告は、今年の2月9日に成均館大学校において、台湾大学哲学系と東アジア学術院儒教文化研究所の共同主催で開催された国際学術会議のときに発表されたもので、近いうちに台湾の雑誌にも投稿予定だそうですが、日本では初めての発表となります。

上海博楚簡『鬼神之神』については、中国ばかりでなく日本においても論文や訳注がすでに何本か出ておりますが、今回のご報告では、それらの先行研究をふまえながら、それらとはまた違った内容を盛り込んだ発表をしていただけるということです。

つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：2009年4月25日（土）午後2時～午後5時

場所：東京大学文学部219番教室（法文1号館2階）

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料

連絡先：

東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学文学部
電話：03-5981-3533 谷 中 信 一